

国内トップバスケットボールリーグにおけるキャリアサポートの現状

The present conditions of the career support in the Japanesetop basketball leagues

1K06B073

指導教員 主査 倉石平先生

萱野 喬

副査 木村和彦先生

【緒言】

2005年bjリーグの開幕を皮切りに日本のトップバスケットボールリーグは、本格的にプロ化が進みだした。前述したようにJリーグにはキャリアサポートセンターの設置により引退・解雇に伴う選手たちのサポートを現役時代から行えるような体制を整え、プロ野球界ではOBが中心となりセカンドキャリアに対する取り組みを行っている。このような現状の中、本研究では、日本のトップバスケットボールリーグにおけるキャリアサポート活動についての「現状」「課題」「要因」を明らかにすることを目的とし、日本のバスケットボール界において今後どういったキャリアサポートが必要であるのかを考察する。

【先行研究】

キャリアサポートを考える上では、アマチュアかプロかによって求められる支援の仕方や、その内容が異なるため各リーグにおける選手の契約形態の違いを考察した。JBL・WJBLにおいては「種」「種」の2種類の登録区分が存在する。種に属する選手はプロ契約選手、嘱託社員、契約社員などである。種はチーム企業の社員選手のことを指す。その内訳はJBL《種59人(64.1%) 種33人(35.9%)/92人》、WJBL《種75人(66.4%) 種38人(33.6%)/113人》であった。bjリーグは《90人(100%)/90人》がプロ契約(業務委託契約)であった。

【調査方法】

日本のトップバスケットボールリーグである日本バスケットボールリーグ(JBL)、日本プロバスケットボールリーグ(bjリーグ)、バスケットボール女子日本リーグ機構(WJBL)を訪問し、各リーグ競技運営部、アカデミー事業部、に対してキャリアサポートの「現状」「課題・弊害」について、インタビュー調査を行った。

【調査結果】

<現状について> JBL・WJBLはキャリアサポートに対する取り組みは行っていなかった。bjリーグはスクール事業を通して選手を再雇用する仕組みを作っていた。bjリーグのキャリアサポートとしての取り組みは、「bjリーグ公認バスケットボールスクール」を開校し、元選手をスタッフとして派遣するというものであった。しかし、現状では引退選手はならず、実際に事業を通しての再雇用実績はなかった。

<課題・弊害について> JBLは、協会やバスケットボール界全体としての課題を挙げた。WJBLは、チームでの現状やリーグ組織の小ささを課題として挙げた。bjリーグは、現在進行しているキャリアサポートを行う上で、指導力、協会との関係、施設を課題として挙げた。

【考察・結論】

本研究によって、JBL・WJBLにおいては選手のセカンドキャリアに対するキャリアサポートを行っていない現状が明らかになった。それと

ともに、キャリアサポートを行う上での課題は、日本バスケットボール協会とともにバスケットボール界全体として取り組んでいかなければ解決できないということも明らかになったと言える。bjリーグにおいても現状の施策では、根本的なセカンドキャリア問題の解決にはならないと言える。今後の日本バスケットボール界の発展のため、トップリーグの不安定な企業スポーツからの脱却、プロ化、そして統一が必要であるだろう。そして、それらを達成した上で一貫したキャリア教育体制を整えていくべきであると言えるだろう。